

JBL4350A の再構成(4) —ダブルウーファー駆動アンプの交換(3)—

1. 始めに

[前報\(3\)](#)において、ダブルウーファー駆動アンプの Heath Kit の W6M (KT88pp) の片チャンネルの音がでなかったので、片チャンネルは W5M (KT66pp) のままとしておきましたが、[ターンテーブルアキュライザーの導入\(8\)](#)で報告のとおり、ST 氏ご来臨の節に点検していただいて復調しましたので、LP-12 のメンテナンスにきていただいたサウンドミカサの助けを借りて、再度交換することにしました。

2. JBL4350A の試聴方法

JBL4350A の駆動アンプを元に戻した結果、駆動アンプの構成はダブルウーファーが Heath Kit の W6M (KT88pp) アンプ×2、ミッドバスからツイーターまでが特注の RCA 45pp アンプ、スーパーツイーターが PILOTONE の 6V6pp アンプ×2 です。



再生ルートは、[前報\(3\)](#)のとおりであり、直近の JBL4350A の試聴は下記でも報告の予定です。

ターンテーブルアキュライザーの活用(1)

チャンネルデバイダーの F-15 については、[ヴォリュームアキュライザーの活用\(10\)](#)で報告のようにヴォリュームアキュライザーを適用したいところですが、他のところに使用していますので、模造品の適用の状態で試聴します。音源は前報(3)で試聴した次の音源です。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーヴェン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

Angel (東芝 EMI) AA 9117・C

ゲオルグ・フードリッヒ・ヘンデル

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

キングレコード SKA-104

愛と自然の歌

倍賞千恵子

3. JBL4350A の試聴結果

前報(3)では TohrensTD124 で再生しましたが、今回は、注油などのメンテナンスを行った LINN LP-12 を使用し、後日ダンパーフレークの導入(1)でも報告するように TACU-1 に加えてダンパーフレークも適用しています。

Sonatas & Partitas は、JBL の抜けの良さに、LINN LP-12 のメンテナンス結果と TACU-1 およびダンパーフレークの効果も加わり、ヴァイオリンの艶ものって、違和感のない再生です。

選帝侯のソナタは、バランスよく、高域の華やかさと低域の響きの良さまで、アンダのピアノズムを再現してくれています。

ワルキューレは、全般的にバランスと分離がよくなり、ウーファー駆動アンプを L/R とともに W6M アンプになったことによる低域の迫力が向上しています。

メサイアは、全般的にバランスがよくなり、弦楽合奏やソプラノの固さが取れてきました。とりわけウーファー駆動アンプを L/R とともに W6M アンプになったことにより、通奏低音の音階が明瞭に聴き取れます。

倍賞千恵子は、全般的に強調感のない非常にナチュラルな音になっており、バックの

低音が明瞭になっています。

同席のサウンドミカサの店主氏も同感とのことで、マルチユニットのシステムながら非常に繋がりがよいとのことでした。

4. まとめ

ウーファー駆動アンプをともに W6M アンプにすることができ、よりバランスのとれた再生になりました。また、LP-12 のメンテナンスと TACU-1 およびダンパーフレークの効果も確認できました。

以上